

2012年度第1回 鋼構造運営委員会議事録

日時： 2012年7月6日（金） 14：00～17：00
場所： 建築会館会議室
出席者： 緑川主査，笠井，金子，向野，河野守，佐藤，澤本，竹内，多田，玉井，
中込，西山，藤澤，藤田，山田，寺田
欠席者： 井戸田，岡本，小河，越智，河野昭彦，桑村，吹田，田川，田中，中島，成原

資料：

01-01 2012年度 第1回鋼構造運営委員会議事予定	(緑川)
2012年度鋼構造運営委員会委員名簿	(事務局)
01-02 2011年度 第5回鋼構造運営委員会議事録（案）	(寺田)
01-03 建築学会東日本大震災合同調査報告書委員会資料	(緑川)
01-04 2012年度第1回鋼構造座屈小委員会 議事録	(竹内)
01-05 鋼構造接合小委員会2012年度第1回議事録	(田中)
01-06 2012年度 第1回 鋼構造制振小委員会 議事録案	(緑川)
01-06(2) 鋼構造制振設計指針（仮題） 目次案	(笠井)
01-08 鋼構造環境小委員会 2012年度第1回議事録	(藤田)
01-09 鋼構造素材小委員会議事録（案）	(山田)
01-10 2012年 鋼構造塑性設計小委員会 第6回 議事録（案）	(玉井)
01-11 2012年度 第1回 東日本大震災鋼構造被害検討WG議事録（案）	(緑川)
01-12 2012年大会PD（会告）	(藤田)
01-13 鋼構造耐火設計指針次期改定への取り込みを検討する項目とその検討状況	(河野守)
01-14 関連書籍に関する質疑回答一覧	(多田)
01-15 2012年度第1回 災害本委員会予定議案 (資料 -07は欠番)	(西山)

議事

1. 前回議事録の確認(資料01-02, 寺田)

・事前配布された議事録案に対する修正指摘事項はなく、議事録は承認された。

2. 鋼構造運営委員会委員交代について

・下記2名の委員交代が報告された。今後、7月25日の構造本委員会にて承認され正式決定する。

(旧) 伏見光雅委員 (新日鐵) → (新) 佐藤嘉昭委員 (新日鐵)

(旧) 田上淳 委員 (鹿島建設) → (新) 澤本佳和委員 (鹿島建設)

3. 各小委員会報告

資料等に基づき各小委員会の活動が報告・審議された。主な点を記す。

1) 座屈小委員会(資料01-04, 竹内)

- ・「座屈に関する諸問題2013」の鋼構造運営委員会査読中である。査読担当玉井委員からは既に査読結果を受け取った。
- ・次回小委員会は8月10日の予定。9月に構造本委員会査読を開始し、2013年度の早い時期の出版を目指している。

2) 接合小委員会(資料01-05, 寺田)

- ・4月18日の今年度第1回接合小委員会では、接合部設計指針の改定講習会の際の出席者からの質問への対応および今年度以降の活動方針が主な議題であった。
- ・多田幹事から、「講習会の後も読者から質問が寄せられているので早急な対応をお願いします」とリクエストされた。

3) 制振小委員会(資料01-06, 01-06(2), 笠井・緑川)

- ・前年度までのWGを統合し、今年度から「制振設計指針編集WG(主査:笠井委員)」を立ち上げた。編集WGで執筆し、制振設計小委員会では原稿の内容検討、過不足のチェック、査読を行う。
- ・資料01-06(2)に基づき、指針の各章の概要が紹介された。
- ・2013年度内新規出版を目指す。そのためには年内の脱稿が目安となる。その後、運営委員会査読、構造本委員会査読、ホームページによる意見募集、製本の流れとなる。
- ・次回の運営委員会にて、鋼構造運営委員会の査読担当委員を決める。

4) 素材小委員会(資料01-09, 山田)

- ・昨年収集したデータの分析結果の一部を今年度大会に投稿した。鋼種ごとの数のばらつきが大きいことため、3回目の調査としてファブリケータにミルシートの提出を依頼し、データベース構築中。

5) 塑性設計小委員会(資料01-10, 玉井)

- ・改定中の塑性設計指針(第3版)の目次・執筆担当案と改定キーワードが示され、小委員会内での議論が紹介された。
- ・材料の降伏強さとしてF値の1.1とする場合があるが、素材小委員会で集めているデータとの関連など検討し、必要に応じ反映する。

6) 環境小委員会(資料01-08, 01-12, 藤田)

- ・小委員会では、大会PDの準備・内容検討をしている。リユースについては、土木との比較を交え紹介する予定。
- ・大会PD資料は、370部印刷の予定。

7) 東日本大震災鋼構造被害検討WG(資料01-11, 西山)

- ・運営委員会の主査・幹事および鋼構造関係の調査団の筆頭者でWGを組織し、2年かけて報告書を作成する。
- ・目次案を事務局に送付し、活動を開始している。
- ・建物被害を検討するに当たっては、入力を知ることが必要である。特に津波被害の場合、津波外力を推定するためには被災建物の建設地の情報が必要となる。兵庫県南部地震では、資産価値などに配慮し建物が特定されないように記述したが、建物の記録を残す価値と建物が特定された時のデメリットの問題である。本WGでは、津波被害を検討するために建物の建設地の情報も併せて報告書に盛り込む方針とする。

4. 重点審議:耐火設計小委員会の進捗状況について(資料No.01-13, 河野守)

資料に基づき、耐火設計小委員会の活動、耐火設計指針の改定方針が紹介され、議論がなされた。

- ・耐火設計指針の体系と近いので、欧州の耐火設計についても参考にしている。
- ・火災時の安全性だけでなく、火災後の残存耐力が評価できると指針の使用範囲が広がると思われる。
- ・地震と火災は同時には起こらないことになっているが、地震によって残留変形が生じたり区画に影響があった場合の耐火性は問題となる。改定指針では、「地震後の火災」についても言及する。
- ・現在の耐火設計指針は2008年度に出版されている。2014年ころに「・・・の諸問題」的なレポートを出し、2016年度ころに改定版出版を図る。

5. 構造本委員会の動き(資料01-03, 緑川)

- ・今年度の第1回の構造本委員会は、7月25日開催予定。
- ・構造本委員会に関連する動きとして、「東日本大震災合同調査報告書」の編集委員会が5月1日に開催された。
- ・本編集委員会は、原子力学会を含む8学会が合同で報告書を作成しようとするものである。
- ・資料01-11に示す鋼構造被害検討WGにて執筆する報告書は、東日本大震災合同調査報告書の一部となる。

6. 関連書籍に関する質疑回答一覧(資料01-14, 多田)

- ・資料の中の太字で示しているのは未回答の質問である。担当の小委員会にて早急に対応をお願いします。

7. 災害本委員会について(資料01-15, 西山)

- ・資料に基づき災害本委員会の動きが報告された。

8. その他

1) 次期主査選挙について

現主査の任期は2013年3月までなので来年度の主査選挙を実施する。次回の運営委員会にて日程を決定し、その後郵送による投票を実施する。

2) 建築学会東日本大震災2周年シンポジウムが2013年3月27(水)～29(金)に予定されている。

■次回鋼構造運営委員会

日時 9月11日(火) 15:15～17:15

場所 安保ホール601会議室：<http://www.abohall.com/price.html>

(JR名古屋駅から徒歩3分です。15:00まで構造本委員会が同室で開催されています)

その後、運営委員会・小委員会・WG合同懇親会予定(担当:岡本委員)

以上(記録:寺田)